

在学生からのメッセージ

博士課程にて学びを深め、 急性期作業療法の発展に貢献したい

修士課程では、脳卒中急性期の患者さんを対象として、その経験の内実を理解するための研究を実施しました。現在は、この研究を発展させるべく博士課程に在籍しています。ここでは、先のながい目標に向かって計画的に研究を実施していくことの大変さを実感しています。その一方で、臨床業務を行いながらオンラインにて研究活動のサポートを受けられるので、とても充実した日々を過ごせています。自己の研究力を高めるとともに、患者さんの健康と幸福を促進できる作業療法士になれるよう、研究活動に邁進していきたいと思っています。



朝日大学病院(岐阜県岐阜市)作業療法士
リハビリテーション科学研究科 博士後期課程在学中

建石 光貴さん

2013年3月作業療法士免許取得。4月JA岐阜厚生連 中濃厚生病院(岐阜県関市)入職。2017年3月JA岐阜厚生連 中濃厚生病院退職。4月朝日大学歯学部附属村上記念病院(現:朝日大学病院)入職。2022年3月本学リハビリテーション科学研究科博士前期(修士)課程修了。4月本学リハビリテーション科学研究科博士後期課程入学。現在に至る。

大学院で育んだ研究を理学療法の発展へつなげる

私は、臨床での経験から生まれた疑問をより深く解明したいと考え、大学院に進学しました。博士課程では、脳波を用いて、フィードバックの取得方法が運動学習に与える影響について研究しています。働きながら研究を進め、データ収集や解析に取り組むことは容易ではありませんが、指導教員のご支援や、大学院での学びに配慮して仕事を調整してくださる職場の協力により、仕事と研究を両立できています。今後も研究を発展させ、得た知識や経験を臨床と教育の両面に還元し、理学療法の発展に貢献していきたいです。



北海道医療大学理学療法学科助教
リハビリテーション科学研究科博士後期(博士)課程在学中

用田 歩さん

2017年3月、本学リハビリテーション科学部理学療法学科卒業。4月、東京湾岸リハビリテーション病院入職。2022年3月、熊本大学大学院修士課程修了。2024年4月、本学入職。本学大学院リハビリテーション科学研究科博士後期課程入学。現在に至る。

研究と臨床をつなぎ、より良い摂食嚥下支援へ

臨床では、患者さん一人ひとりに適したリハビリテーションを提供する難しさを日々実感しています。その中で生まれた疑問を追究し、より良い支援につなげたいと考え、大学院へ進学しました。現在は摂食嚥下分野を中心に、研究を進めるための知識や技術を学んでいます。課題に直面することもあります。先生方に支えられ、充実した毎日を送っています。今後も研究と臨床の両面から学びを深め、患者さんに還元できる知見を蓄積していきたいと考えています。



医療法人ひまわり会札幌病院 言語聴覚士
リハビリテーション科学研究科 博士前期(修士)課程在学中

石川 慎二郎さん

2022年3月本学リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科卒業。2022年札幌病院入職。2026年4月本学大学院リハビリテーション科学研究科博士前期(修士)課程入学。現在に至る。

自分に合った受講環境で学びを深め、 臨床と研究が両立できる

私は、臨床で感じた課題や疑問を解決するために研究を実施し、現場の発展に寄与したいと考え、本学の大学院に進学しました。修士課程では、脳性麻痺などの小児疾患をもつ子どもを対象とした、自転車を用いたリハビリテーション介入に関する研究を行っております。本学では、オンラインを活用することで道外などの遠方からでも受講できるほか、勤務体制に合わせて柔軟に講義を開講していただけます。また、指導教員をはじめとする先生方のサポートも手厚く、仕事や家庭と両立しながら無理なく研究を進めることができます。



横浜療育医療センター 理学療法士
リハビリテーション科学研究科博士前期(修士)課程在学中

杉本 路斗さん

2017年3月 本学リハビリテーション科学部理学療法学科卒業。4月 川崎市中央療育センター入職。2020年4月 川崎市中央療育センター退職。同月 横浜療育医療センター入職。2025年4月 本学大学院リハビリテーション科学研究科博士課程前期(修士)課程入学。現在に至る。

大学院 入学説明会 開催日程

事前の
申し込みを
お願いします



第1回

2026年**9月5日(土)** 13:00～
会場／札幌あいの里キャンパス
札幌市北区あいの里2条5丁目

第2回

2026年**11月21日(土)** 10:30～
会場／オンライン開催

●入学試験日程

	博士前期(修士)課程		博士後期(博士)課程
	第1回【一般選抜/社会人選抜】	第2回【一般選抜/社会人選抜】	
出願期間	2026年9月7日(月)～9月18日(金) 必着	2026年12月18日(金)～2027年1月7日(木) 必着	2027年1月12日(火)～1月25日(月) 必着
試験日	2026年10月1日(木)	2027年1月20日(水)	2027年2月4日(木)
合格発表	2026年10月9日(金)	2027年1月27日(水)	2027年2月12日(金)
手続期間	2026年10月10日(土)～10月22日(木)	2027年1月28日(木)～2月8日(月)	2027年2月13日(土)～2月24日(水)

※詳細は本学ホームページ、「受験生応援サイト」でご確認ください。

●入学試験科目

一般選抜(修士課程)
●専門科目
●外国語(英語) ●面接
一般選抜(博士課程)
●外国語(英語)
●口述試験
社会人選抜
博士前期(修士)課程のみ
●小論文 ●面接

資料請求・
お問い合わせ先

北海道医療大学 入試広報課

☎ 0120-068-222

資料請求 <https://www.school-go.info/7012nhe/hokuiryo/form.php?fno=5&fsno=1&nnsno=1>



北海道医療大学
Health Sciences University of Hokkaido

TEL 0133-23-1211(代)

- 当別キャンパス／〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
- 札幌あいの里キャンパス／〒002-8072 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目
- 札幌サテライトキャンパス／〒060-0004 北海道札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45 12F

■薬学科 ○薬学科 ■歯学部 ○歯学部 ■看護福祉学部 ○看護学科 ○福祉マネジメント学科 ■心理科学部 ○臨床心理科学部 ■リハビリテーション科学部 ○理学療法学科 ○作業療法学科 ○言語聴覚療法学科
■医療技術学部 ○臨床検査学科 ■臨床データサイエンス学環
■大学院薬学研究科○薬学専攻(博士課程) ■大学院歯学研究科○歯学専攻(博士課程) ■大学院看護福祉学研究科 ○看護学専攻(博士前期・後期課程)／臨床福祉学専攻(博士前期・後期課程)
■大学院心理科学研究科 ○臨床心理学専攻(博士前期・後期課程) ■大学院リハビリテーション科学研究科 ○リハビリテーション科学専攻(博士前期・後期課程) ■大学院医療技術学研究科 ○臨床検査学専攻(博士前期・後期課程)

北海道内の私大で初、リハビリテーション科学分野の大学院

北海道医療大学大学院 リハビリテーション科学研究科

大学院生募集の お知らせ

2027

リハビリテーション科学専攻
博士前期(修士)課程/博士後期(博士)課程
社会人選抜も実施しています。

仕事を続けながら研究を深めたい。マネジメント能力を高めたい。

先進的な技術を学びたい。その希望が叶う大学院

質の高いリハビリテーションを実践するための先進的な知識と技術に加え、

高度化・多様化が進む保健・医療・福祉の現場において、

指導的役割を担うための管理・指導能力や学際的視点も育成します。

2015年度には博士後期(博士)課程を開設し、学部・博士前期(修士)課程と一体的な研究指導を行っています。



北海道医療大学
Health Sciences University of Hokkaido

理学療法・作業療法・言語聴覚療法を統合し、他研究科とも連携した教育体制。

クライアントの問題を医学、心理学、社会学などの観点から把握する能力を育成。
多職種と適切な連携をはかるためのコミュニケーション能力や、
組織をマネジメントする能力も育成します。

社会人学生も安心して学べる充実した対応体制

夜間・集中開講、サテライトキャンパスの活用など学びの環境整備を促進。

社会人学生の方が働きながらスムーズに受講できる環境を整えています。札幌サテライトキャンパス(札幌駅から徒歩3分)を活用した夜間講義、休日(土日)を利用した集中講義も実施しています。

■ 札幌サテライトキャンパス

JR・地下鉄札幌駅から徒歩3分の「アスティ45」12階にあり、大講義室、会議室、共有ラウンジを設置。夜間や休日も授業を開講しています。



オンライン開講にて通学が困難な場合でも柔軟に学びをサポート。

オンラインサービスを利用して講義を展開しています。遠方に居住されている、勤務都合で昼間の通学が難しい場合なども、一定の環境下でリアルタイムに受講できます。※一部演習科目を除く

■ 修了者数

	【一般選抜／社会人選抜】				
	2022	2023	2024	2025	2026
博士前期(修士)課程	6名	7名	2名	6名	3名
博士後期(博士)課程	1名	1名	3名	1名	2名

学納金

	入学金※1	授業料※2	後援会費※3
博士前期(修士)課程	200,000円	800,000円	35,000円
博士後期(博士)課程	200,000円	750,000円	35,000円

※1: 本学卒業生及び本学提携の医療機関・福祉施設などに勤務しながら入学する方は免除
※2: 入学手続時及び2年次前期(4月): 400,000円、後期(9月): 400,000円
※3: 入会金5,000円、年会費30,000円(前期(4月): 15,000円、後期(9月): 15,000円)

長期履修制度により社会人の就学を支援

勤務の都合などで標準修業年限(前期2年の課程・修士課程は2年、後期3年の課程: 博士課程は3年)で修了することが難しい場合は、長期履修を申請することができます(授業料は在籍する課程の標準修業年限分の納付)。

リハビリテーション治療学分野

各種障害に対するリハビリテーションの治療介入を主な研究テーマとする。本分野には、内部障害リハビリテーション、運動障害リハビリテーション、発達障害リハビリテーション、精神障害リハビリテーションの専門領域を設けている。各種障害に対するリハビリテーションの最新知見をもとに学習し、臨床現場において適切な障害評価と原因を追求できる、さらには科学的根拠に基づいたリハビリテーション治療介入を展開できる人材を育成する。

教授
近藤 里美
Email
skondo@hoku-iryo-u.ac.jp

重度認知症高齢者の音楽療法的介入の実践研究やパーキンソン病のリハビリテーションにおける音楽の役割に関する研究を進めている。

教授
浅野 雅子
Email
asanom@hoku-iryo-u.ac.jp

精神障害者に対する作業療法介入の実践や精神科リハビリテーションに関する課題の研究指導を行う。

教授
中川 賀嗣
Email
poverame@hoku-iryo-u.ac.jp

高次脳機能障害の各症状を、神経心理学的手法を用いて研究する。特に行為・動作の障害について詳細な分析を行う。

教授
橋本 竜作
Email
hashi-ryu@hoku-iryo-u.ac.jp

学習障害に関して心理学的手法による評価、その結果に基づく支援法を研究する。特に症状から認知機能障害、そして脳機能の理解へと考察できることを目指す。

教授
才川 悦子
Email
saikawa@hoku-iryo-u.ac.jp

聴覚障害児への早期介入と多職種連携、療育ネットワーク及び、成人も含めた地域聴覚障害者支援のシステム構築の研究・指導を行う。

教授
永見 慎輔
Email
nagami@hoku-iryo-u.ac.jp

言語聴覚療法における評価機器や支援機器の研究を専門としている。特に、摂食嚥下および発声発語の評価・治療に関する臨床の疑問を研究テーマとし、それに基づいたデバイスの開発と実装に注力する。

准教授
大須田 祐亮
Email
osuda@hoku-iryo-u.ac.jp

運動発達障害を呈するリハビリテーション対象者の生活機能に関する評価および治療介入の効果について研究指導を行う。

准教授
澤田 篤史
Email
as-51@hoku-iryo-u.ac.jp

主にがん患者、小児肥満、高齢者を対象にリハビリテーション栄養や、健康増進の視点から運動・栄養介入の効果について研究指導を行う。

准教授
児玉 壮志
Email
kodamas@hoku-iryo-u.ac.jp

精神疾患に関する1次・2次予防の介入方法について研究指導を行う。

准教授
鈴木 瑞恵
Email
mizue.suzuki@hoku-iryo-u.ac.jp

地域在住高齢者の摂食嚥下機能とサルコペニアの関連や、高齢者のコミュニケーションの量的・質的变化について研究・指導を行う。

講師
岩部 達也
Email
iwabe@hoku-iryo-u.ac.jp

ヒトを対象とした神経生理学的研究(特に運動、情動、自律神経活動の相互作用の探求)およびパーキンソン病などの神経筋疾患を対象とした評価・治療に関する研究について研究指導を行う。

講師
山根 裕司
Email
ya_yuji_426@hoku-iryo-u.ac.jp

スポーツ傷害発生における骨形態の関与、スポーツ活動中の動作分析、アスレティックリハビリテーションの介入効果に関する研究指導を行う。

講師
柳田 早織
Email
s.yanagi@hoku-iryo-u.ac.jp

音声障害における定量的評価法の開発や治療法に関する研究指導を行う。

講師
飯泉 智子
Email
i-zumi@hoku-iryo-u.ac.jp

発声発語・摂食嚥下メカニズムの解析および摂食嚥下リハビリテーションの評価・治療に関する研究指導を行う。

講師
若松 千裕
Email
wakamatsu@hoku-iryo-u.ac.jp

失語症をはじめとする高次脳機能障害の病態を脳機能の観点から解明し、実践的なコミュニケーション支援体制の構築と臨床現場に還元できる研究を進めている。

生体構造機能・病態解析学分野

理学療法や作業療法、言語聴覚療法をはじめとするリハビリテーションの科学的基盤となる分野である。ヒトの正常な生体構造・機能や各種疾患に起因する生体構造・機能の変化とそのメカニズムを主な研究テーマとする。本分野には、解剖学、身体運動科学、運動・動作解析学の専門領域を置いている。リハビリテーションの科学的基盤となる医科学に関する最新知見を学習し、修得した専門知識と技術を活用しながら臨床課題を解決できる人材を育成する。

教授
下村 敦司
Email
shimo@hoku-iryo-u.ac.jp

感音難聴に対する再生医療の実現を目指した基礎研究と技術改良を課題とし、研究指導を行う。

教授
太田 亨
Email
ohta@hoku-iryo-u.ac.jp

先天異常疾患の機序解明に向けて、遺伝学的、またはエビジェネティクスの分子機構を、分子生物学的手法を用いて解明する。

准教授
森元 良太
Email
ryota@hoku-iryo-u.ac.jp

生物学、物理学、心理学、確率論、統計学の主要概念や理論的特徴について、科学哲学の観点から考察し、科学の基礎に関する研究指導を行う。また、医療倫理や生命倫理、障害者福祉論の指導も行う。

講師
井上 恒志郎
Email
ikoshiro@hoku-iryo-u.ac.jp

記憶学習や情動行動の改善に有効な運動処方の開発とそれを支える神経機構について、運動条件や対象の特性、ストレスに着目して研究を行っている。マラソンに向けたトレーニングやコンディショニングの研究も行っている。

講師
桜庭 聡
Email
s-saku@hoku-iryo-u.ac.jp

注意機能や視覚認知機能を中心とした高次脳機能障害に関する症状の理解、及びそれらのリハビリテーションについて研究指導を行う。

講師
西出 真也
Email
nishide@hoku-iryo-u.ac.jp

ヒトの生理機能の多くは24時間周期的なリズムを示す。そのため身体活動や疾患などにも1日の中で変動がみられる。生理指標や活動にみられるリズムを解析するため、あるいは治療効果の時刻依存性を調べるために、ヒトやモデル動物を対象とした研究を行う。

地域健康生活支援学分野

地域社会において障害(児)者や高齢者が健康で主体的な生活を営んでいくための支援策を主な研究テーマとする。本分野には、作業行動学と地域生活支援学の専門領域を置いている。障害(児)者の日常生活活動への支援や高齢者の健康増進への取組などについて学習し、医療のみならず保健や福祉の現場で対象者の生活を支援できる人材を育成する。

教授
鈴木 英樹
Email
hideki-suzuki@hoku-iryo-u.ac.jp

地域在宅高齢者の生活環境支援並びに積雪寒冷地における介護予防を研究課題とし、両課題に対する具体的な方策に関する研究指導を行う。

教授
鎌田 樹寛
Email
tkamada@hoku-iryo-u.ac.jp

作業療法(作業行動学や人間作業モデル)の観点に基づくアプローチを前提に、計量学的根拠を持つ評価法の開発、ならびに効果的な治療や援助方法の確立を目標とした研究指導を行う。

教授
本家 寿洋
Email
honke@hoku-iryo-u.ac.jp

高齢者の余暇活動の楽しさを詳細に評価できる評価法(LAES)を開発し、この評価法を基盤とした事例研究とプログラム開発に関する研究を行っている。

准教授
長谷川 純子
Email
j-hasegawa@hoku-iryo-u.ac.jp

地域在住高齢者のサルコペニアやフレイルについて、特に季節変化に着目した研究を行っている。

講師
只石 朋仁
Email
tomo-tadaishi@hoku-iryo-u.ac.jp

高齢者の身体活動と健康に関する研究。北海道の地域特性が住民の身体活動へ与える影響とその対策に関する研究。自宅や地域で役割を持つことと要介護の予防に関する研究。地域理学療法の効果の検証。

指導教員の研究内容詳細は、教員に直接E-mailでお問い合わせいただくか、大学ホームページをご確認ください。